

(2012年度山西大学奨学生レポート4月)

異文化理解

吉田 想陶

新学期が始まり1ヶ月が経ち、私の所属する初級班には新学期から新たなクラスメートが増えとても賑わっています。しかし、後期から加わった学生の中にはゼロから中国語を学びに来ている学生もあり、彼らにとって既に半年間中国語を学んでいる私たちと一緒に授業を行うということは、やはり難しいようです。また非漢字圏から来ている学生にとって、見慣れない漢字での授業は日本人の私が想像する以上に大変なようで、クラスメートからよく「漢字圏の学生は羨ましい」と言われます。確かに中国語を勉強する上で非漢字圏の学生に比べ有利な点が多いのは間違いありません。彼らに「なんで日本人なのに漢字が書けないの？」という様なことを言われなかったためにも今後も気を引き締めて勉強に励みたいと思います。

先日、精読の授業中に各国の特徴や文化を紹介するプレゼンテーションが行われました。その授業を通して感じたことを報告したいと思います。

海外経験が少なく中国以外の国に行ったことのない私にとって、各国の留学生から自国の話を聞くことができたことはとても新鮮で、日本に居た時には名前しか知らなかった国も、クラスメートの母国となると自然と興味が湧いてきます。イタリア、ドイツ、カナダ、韓国、また今まで理解の少なかったアルメニア、タジキスタンなどの特徴や文化を聞くことができたこのような体験は、留学生活ならではの貴重な体験ではないでしょうか。



プレゼンテーションの様子

(この日は中国人学生が太原について紹介してくれました)

私たち日本人留学生は、日本の観光地、日本食、アニメ、最後に埼玉県観光地や山西省と友好提携を結んでいることなどを紹介しました。中国語では自分の言いたいことがうまく言えない事や、発音や声調の違いで伝わらない事もあり、悔しい思いもしますが、それが伝わったときはすごく嬉しいです。



日本食を紹介している様子

(クラスメートから色々と質問を受け、説明が大変でした)

このプレゼンを通して改めて感じたことは、自国の文化や考え方と異なる価値観を理解するためには、自国の価値観を基準とした偏ったものの見方をせずお互いに認め合うことが大切だということです。しかし頭では分かっているものの、理解しがたい文化の違いに直面すると、なかなか素直に受け入れることができない自分もいます。新しい文化や人に触れ刺激を受けること、各国の留学生や現地の方々と交流を深めること、このような体験は自身の視野や意識を広げることにつながると考えているので、今後もクラスメートや中国の友人との交流を大切に、残りの留学生生活を有意義なものにしていきたいです。